秋高同窓会だより

題字は塩田会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会

印刷所
秋田オフセット
印刷株式会社

茨城県に支部を

姉妹提携の拠点に

準備委初会合　委員長に小玉氏選任

水戸一高同窓会との姉妹提携準備委員会は九月二十五日秋田パークホテルで初会合を開き、委員長に小玉得太郎副会長を選任、次回までに協定文案を作成することになった。

小玉 得太郎 氏

姉妹提携準備委員会は一昨年暮れに水戸一高の創立一一〇周年記念を機会に同校同窓会（知道会）から本校に姉妹提携を申し込んで来たのを受けて、本校側も検討、昨年夏の総会で準備委員会の設置が決まっていた。

初会合は委嘱された九人の委員と事務局長が出席、委員長に小玉副会長を選んだあと、副会長は必要に応じて選任することにした。

このあと協議に入ったが、当局は、こちらの経過を水戸一高に連絡する一方、先方の進行状況について確認することで一致、姉妹提携の拠点として平成二年中に秋高同窓会茨城県支部づくりを目指すことにした。また、協定書文案の作成は山中良二郎委員と加藤民夫委員が担当することを決めた。

同委員会の決定に基づき、事務局では十月六日に水戸一校同窓会あてに照会文書を発送した。その結果、先方でも十月に常任幹事会を開き、十一月五日の総会で提携準備委員会をつくることの承認を得たとの電話連絡があった。

「活性化」で検討を

常任理　年次の改選で望む

同窓会では各年次の役員改選時期にあたり、できるだけ活性化の方向で検討してほしいと呼びかけている。

一二〇周年記念、水戸一高との提携話など同窓会の事業が多いうえ、会費徴収問題など同窓会周辺の課題も山積しているところから、十二月の企画委員会で論議され、さらに同十六日の常任理事会でも取り上げられた。

各年次はこれから七月にかけて役員改選をするところが多いが、交代する場合は、活性化を前提に検討し、決定次第事務局に連絡してほしいと言っている。

桜谷吾朗氏を参与に委嘱

同窓会では前事務局長の桜谷吾朗氏（12年卒）を参与に委嘱することになり、十二月十六日の常任委員会で承認された。

一二〇周年記念事業、水戸一高との提携問題など懸案が山積しているため、事務に慣れた桜谷氏に助っ人を依頼することになったもの。

桜谷氏は五十九年九月から五年間、同窓会本部の事務局長を務め、昨年八月の通常総会で引退していた。

田口能祐、佐藤直彦、白瀬昭

三教諭が定年退職へ

田口能祐教諭

佐藤直彦教諭

白瀬 昭 教諭

この三月末で、田口能祐（国語）、佐藤直彦（数学）白瀬昭（英語）の三教諭が定年退職されることになっている。

三先生とも、本校には長短の違いはあるが、それぞれのお仕事で多大の貢献をして戴いた。中でも田口教諭は、同窓会広報担当者として、尽力された方である。そこで、この機会に退職の思いを寄稿（4面に掲載）していただいた。

藤森健司記

今秋に実行委発足

常任理事会　120周年事業で協議

同窓会では平成五年九月一日に予定される創立一二〇周年記念式典に備えて、三月末までに実行委員候補者を選任することになった。

一二〇周年記念事業については、昨年八月の通常総会で「実行委員会要綱案」が承認されている。これに基づき、昨年十二月十六日に開かれた常任理事会で協議した結果、昭和五十八年九月一日に行われた一一〇周年記念式典の際は、三年前の五十五年十月三十一日に第一回実行委員会を開いている。

この日程からすると、ことしの秋には第一回実行委員会を開き、具体的な記念事業について協議しなければならないことから、三月末日までに実行委候補者を選ぶことになった。

一二〇周年記念事業の組織づくりなどを協議した常任理事会

記念品はタイタック　3月7日に入会式

本同窓会恒例の入会式は、三月七日の卒業式に引き続き、午前十一時から母校体育館で行われる。

同窓会から贈る記念品はタイタック、式は十九年卒、梶原忠郎氏の司会で行われ、当番年次で激励の言葉を担当する。

通信連絡に補助金　若年次活性化対策で

若年次活性化対策の一かんとして、同窓会では今年も活性化対策費を支給する。

対象となる年次は、42年次（四十一歳）以降の年度で年次の会合などの通信連絡に三万円を支給するというもの。

常任委だより

「同窓会だより三十号」発行以後に開催された常置委員会は、次の通りである。

△名簿委員会（十月十二日）

本年度第二回目の名簿委員会は、鎌田会館で小沢副会長以下十一名の出席者で開催された。

まず事務局より、七月の監査以後の名簿・広告代金の納入状況や、督促および支出についての説明があり、現在の未納額（三百七十万円余）の解消にいっ層努力することを申し合わせた。

次に「正誤異動表」の発行について話し合われたが、前回並と予定すれば、年内をめどに発行したいということになった。

更に、今後のコンピューター管理についての意見交換がなされたが、年次のラベルの出し方、年次ごとのフロッピーの出し方等々と、経費負担や人的問題などいろいろあって、結論は出されなかった。

△広報委員会（十一月二十四日）

本年度第三回広報委員会は、小林副会長以下九名の出席者で開催された。

「だより三十一号」の編集についてと執筆分担を打ち合わせた。なお、今回は十二月十六日の常任理事会が主要記事となるため、原稿締切日の関係上、発行日を平成二年一月十五日と決定した。

△「企画委員会」（十二月七日）

本年度第三回企画委員会は、小玉副会長以下六名の出席者で千秋会館において開催した。

協議事項としては、(1)同窓会入会式について(2)百二十周年記念事業実行委員会の組織づくりについて(3)若年次の活性化対策について(4)来年度の役員改選について(5)水戸一高同窓会との姉妹提携について(6)常任理事会の次第についてであった。

事務局だより

▽師走も半ば近くなり、同窓会事務局も、同窓会名簿35号の「正誤異動表」の原稿整理や、「だより31号」の原稿収集、それに常任理事会の資料作成と、日頃の業務に加えていちだんと忙しくなり、師走の意味を久しぶりに実感している今日この頃です。

▽今年三月発行された「同窓会名簿第35号」の代金も、12月10日現在で95％の納入率になりました。ただし、未納の方もまだ三百名もおりますので、忘れている方は急いで納めてください。

▽十二月十日現在で、年次会費の納入は二十八年次で58％、役員会費の納入者は三百三十六名で66％の納入率ですので、世話人、役員の方々には、お手数やご迷惑をおかけいたしますが、それぞれ一月末日までには納入されますようお願いします。

▽だより三十号で報告後の会務は次の通りであります。

○9・25「水戸一高同窓会姉妹提携」準備委員会○9・30営林局支部総会○10・12第二回名簿委員会○10・14一八会総会○10・20「だより30号」発行○11・14湯沢・雄勝支部総会○11・18東京支部、男鹿支部、五城目支部総会○11・22同窓名簿出版記念反省会、本荘・由利支部総会○11・24第三回広報委員会○12・7第三回企画委員会○12・12能代・山本支部総会○12・16第二回常任理事会

天上天下

中央で活躍する同窓生は数多い。マスコミなどで大きく報道された人が本校の卒業生と知ると、例え本人とは面識がなくとも十年来の知己と思えてくる。これこそ同窓意識と言うべきだろう▼昨年秋から暮れにかけて二人の若手同窓生の動向が注目された。一人は外務官僚で十一月二十五日付でマニラ総領事となった阿部信泰氏（39年卒）。もう一人はプロ野球の近鉄に入団した石井浩郎氏（58年卒）だ。この二人、本校の同窓生といっても年代は異なるし、共通点はあまりない。強いて挙げると二人ともその道のホープということだ▼東大法学部在学中に外交官試験に合格。東大を中退して外務省に入ったという秀才の阿部氏。入省後は木村俊夫、宮沢喜一、牛場信彦といった有名外務大臣のもとで秘書官を長く務めた。五十八年には外務省で最も年齢の若い課長と語り継がれたこともある。国連代表部参事官からマニラ総領事の辞令は、魁新報の片隅に掲載されただけだったが、県人としても見落とすわけにはいかない人事だ▼石井氏については改めて紹介するまでもない。早稲田、プリンスホテルで活躍、全日本でも四番を務めたホームラン打者だ。本校出身ではかつて国鉄スワローズで活躍した小西祐悦氏（32年卒）以来のプロ野球選手。高校時代には甲子園の夢を果たせなかったが、プロの世界でどこまで素質を開花できるか楽しみである▼「高校時代から世界史が好きだったので迷わず外交官の道を選んだ」という阿部氏。難しいフィリピン情勢の中でこれからの活躍を注目せずにはいられない。それにしても国際社会から野球場まで同窓生の活躍の場幅は広い。これも創立以来、百十五年を超えた名門なればこそだろう。

沢山の方から激励受ける

昨年三月、五千七百冊余の同窓会員名簿を全国の会員に頒布してはや十ヶ月が経ちました。

しかし、平成二年が明けても昨年の春先に配った名簿の代金整理に、未だに毎日追われているのが現状です。それに、四月以降の異動変更と合わせて、目下「正誤訂正表」の作成のため、毎日が名簿との首っ引の連続です。

先に、名簿委員会副委員長の工藤雄一氏が名簿発行の製作過程面について、一文を掲載（だより29号）されましたので、私は配付後の状況などについて述べさせていただきます。

先ず最初に、当方の手違いもありまして、予約部数を間違って多く送ってしまったケース、また、送付先の見間違いから会員と父兄、父兄と会員の逆の住所へ送付してしまったものもありましたことを深くお詫び申しあげます。

次に、二重注文者や予約注文書を提出されているにもかかわらず受領されないで、当方に返品されたものも数冊ありますし、不在または転居先不明で戻ってきたものも数十冊もありました。これらについては、現在まで何等の連絡もない分については、新規の注文者に提供しておりますのでご了承ください。

さらには、名簿代金のことについて一言申しあげてみたいと思います。当初送本（広告掲載者80冊と返品分を除く）の冊数は五千六百三十八冊で、これが有償配布冊数です。

そして、四月以降に代金の振込みが行われましたが、七月に会計監査が行われる関係から、六月末日にて締切った所では、三、九五三冊分の代金が納入（納入率70％）されておりました。未納は一、六八五冊分であります。

七月の中旬には、第一回目の督促状を一、七三三通（広告掲載者および追加注文者を含む）を出しております。その結果、十月十日までに九二九冊分が納入され、納入率も86％に上りました。その後、十月、十一月と二回の督促をいたしまして、十二月十日現在では五、三五五冊分が納入され、納入率は95％になりました。それでもまだ三〇〇冊位は未納になっております。

でも、ここまで処理することができたのは各位のご協力の賜と感謝しております。

最後に、名簿の発行に伴って沢山の会員から手紙や電話、また振込用紙の裏面通信欄による連絡などをいただきましたが、その中から思い出に残るようなものを二つ三つあげてみたいと思います。

一、「衆議員」という日本語はありません。（最終学歴が衆議院速記者養成所卒の方から・振込用紙裏面）

二、注文もしないのに勝手に送ってきて、督促とは何んですか。予約カードに○印が着いておりますが。そんな○印なんか誰が付けたか、分るもんですか、二度こんなものはよこさないでください。（京都在住者電話）

三、物もきていないのに、金の請求とはひどいですね。例えて言えば詐欺ですね。学校に人が来て直接手渡しすることになっておりますが。私も父も十何年と秋田に行ったことがありませんし、名簿も見たことがありません。（仙台在住者電話）

四、本日又しても私のもとに〝名簿代金の納入について（お願い）〟なる葉書が届きました。私としては以下の要件を満たすならば支払う用意はあります。条件は二つ。（東京在住者手紙）

予約カードは本人でなく実家から出されたもののようである。

以上四人の会員からの連絡をあげましたが、その他沢山の方々から激励や感謝のお言葉もいただいていることをお知らせしておきます。

終りに、名簿委員の方々を始めとして、年次別名簿の原稿作成に当られた方々のご努力、ご苦労に対し心から厚くお礼申しあげます。

さらには、名簿委員会および事務局としても、名簿発行と共に今後の活用について、いろいろな反省点や意見がかわされましたので、今後の仕事に活かしていきたいと思っております。

今後とも会員各位のご協力と、ご鞭撻をお願いしまして、終わりといたします。

「同窓会員名簿出版余話」

代金回収率は95％に

同窓会事務局長　伊藤守一

新テスト行われる

―平成2年度進学志望状況から―

受験する三年生にとって、日程上はいよいよ終盤にさしかかったことになる。「分離・分割制」を採用する大学が増える中で、新たに共通一次に代って「大学入試センター試験」が導入された。試験内容には大きな変動がないとみられるが、受験生にとってはやはり気がかりだと思われる。

この最初のセンター試験に本校生徒三八九名が出願した。推薦入学合格者など若干この数字を下回るとみられるが、大勢には変りがないとみられる。これに対して私立大学の専願者は六五名で昨年よりも一七名少ない。

さて表にみるとおり、主要大学の志願状況で第一に注目されるのは、第二志望を含めると一七名もの東大志願者が出たことである。昨年の五名の三倍を超える数値である。そのチャレンジ精神において、最近類をみないところである。京都大学の二一名も同様である。従来秋高生は成績上位者が安全志向なのに低位のものが一発勝負を賭けるケースがまま見られたが、今年はその傾向は少ない。期待して見守りたい。

また東北大学であるが、これも第二志望を加えると七三名にのぼるのである。とくに第一志望の四九名中、合格圏にあるものがかなりいて、昨年よりも五～一〇名の増加が見込めると思う。次に私立大学を展望してみよう。青山学院、慶応、上智、中央の各大学は本校で常に人気の上位にあるが、受験希望者はほぼ昨年並みである。

早稲田大学については、第一志望で昨年を九名も下回っている。その最大の原因は、毎年挑戦する先輩たちの苦戦ぶりにあるとみられる。かつて国公立の中堅校クラスの受験生が横すべりで合格可能であった首都圏の私立大学が、そろってレベルアップしており、中途半端な私大対策では追いつかないのが今日の実情である。ここは、私立専願者六五名の奮起を待つしかないのである。

以上の志望状況を概観のうえで、生徒の今後の学習方向に話を進めてみたい。ご承知のとおり、最近では大学の二次試験に論文を課することが多くなってきました。本年度は、何らかの形で論文を試験に採り入れている大学が、ついに七〇％を超えるに至りました。

本校進路指導部もこの現実を重視して論文指導に乗り出しました。さっそく三人の教師がチームをつくり、生徒の希望する大学に応じたテーマをとりあげ論文添削を開始しました。これは二月の上旬頃まで続けられる予定であり、かなりの成果を生むものと確信しております。

また、三年次の成績低迷の根源は、一年、二年段階における学力低下によるものとして、学年主任、教科主任、進路指導部等が一体となり、拡大進路指導部会を開催し、この問題の打開策を検討しはじめております。さらに、質量ともに満足できる公開模擬試験への参加をどう実現させるか計画を立案中です。

生徒の学習意欲を喚起しながら、高い理想の実現に向ってその進路を確立させる仕事は、口で言うほど容易なものではないと思われます。

今後ともご父兄や同窓生の皆さんの側面からの支援を心からお願い申し上げます。

（進路指導部加藤民夫）

大学別志願者数

（　）内は第2志望を含む

大学名		人数 平成元年	人数 昭和63年
北海道		19（32）	28（42）
弘前		8（21）	5（40）
岩手		2（3）	4（5）
東北		49（73）	58（65）
秋田	教育	31（86）	44（77）
	医	14（27）	16（20）
	鉱山	10（44）	20（34）
山形		0（6）	4（29）
筑波		14（16）	12（17）
千葉		9（16）	7（17）
東京		12（17）	4（5）
東京外語		1（2）	3（6）
東京学芸		21（26）	13（28）
東京農工		7（10）	7（11）
東京工業		5（5）	3（5）
お茶の水女子		4（4）	0（0）
電気通信		1（1）	0（1）
一橋		7（10）	6（7）
横浜国立		8（27）	7（23）
新潟		29（40）	12（26）
金沢		10（15）	16（49）
京都		14（21）	9（13）
東京都立		9（12）	4（10）
青山学院		7（12）	9（19）
慶応義塾		8（12）	7（12）
上智		3（6）	3（8）
中央		9（17）	8（17）
明治		15（31）	9（18）
立教		8（15）	1（4）
早稲田		13（19）	22（27）

変わらぬ懐かしさ

秋田営林局支部

秋田営林局支部の年に一度の総会が九月三十日弥高会館で開催され、議題に従い報告・審議と進み、最後に課題であった総会への多数参加の方策を見い出し総会を終了、記念写真を撮影後懇親会に移った。

懇親会では、高橋会長の挨拶の中で特に今回の参加人員が多かった喜びの話があり、来賓として出席された母校の室田校長から学校の近況報告、伊藤事務局長から母校同窓会の活動報告を戴き、営林局側から出席した宇津木経営部長からは、若かり頃一緒に仕事をした懐かしい人達との再会を果たせて嬉しかった等のお話しがありました。

いつになっても変わらぬ懐かしさと親しさを持って集まるということは、母校によって精神的に励まされ、母校を心のよりどころとする「母校の力」にほかなりません。

いつにない盛り上がりをみせた今回の集まりは、最後に長谷川応援団長の音頭で、校歌・副歌を斉唱し午後8時すぎ散会しました。

新役員は次のとおり

▽会長＝高橋正行（30年卒）▽副会長＝見上昭太郎（28年卒）、小玉　實（30年卒）▽事務局長＝木曾晃哉（32年卒）

「昭和」を語り合う

秋中49期十一紫会

私たち四十九期卒業生は、旧東根小屋町にあった旧校舎での最後の卒業生、昭和十一年春である。この年あの帝都を震がいさせた二・二六事件が起った忘れ得ぬ昭和の激動期の幕あけの中と言ってもよい。昨年度は古希を迎えた一つの筋目として、八十余名に及ぶ物故者（その多くは戦没者でもある）の追悼法要を行った。毎年十月に同窓会を持つことを申し合せており本年度も十月二十二日「みずほ苑」で会を催した。「私にとって昭和は……。」共通した思いを語り合った。当日の出席者は次のとおり。

佐藤民治（会長）、槇尾五郎、須見作郎、中田富重、斎藤義輔、佐々木哲夫、信田　昭、畠山太郎、渡辺純一郎、市川　稔、小川宇一郎、熊谷義一、伊勢啓一、佐藤淳治郎、水谷勝一、佐藤俊一、熊谷與一郎、綿引沚平。

（伊藤　馨）

哀悼

（判明分・敬称略）

湯川　岩蔵　S20・六郷町　1・9
木村　雄吉（T10）東京都　1・10
平野　元章　S26・秋田市　1・10
橋本錬太郎（S7）〃　1・10
今野　博　S43・東京都　1・10
沢口　定雄　S7・秋田市　1・11
庄司　兵蔵　S9・森吉町　1・12
北嶋　諒一（T9）五城目町　1・12
福田敬之補（S21定）秋田市　1・12

食料品雑貨卸小売
(資)有元商店
代表社員
有明秀太郎（S29卒）
大曲市上大町八ノ三十一
電話 〇八七十六三十〇七七七

早川眼科医院
早川正明（S29卒）
秋田市南通亀の町四ノ三十六（有楽町）
電話 〇八八―三二―二八三〇

(株)畠山製粉所
畠山春男（S29卒）
秋田市旭南二ノ二ノ四十六
電話 〇八八―六二―四八五八

赤坂皮膚泌尿器科医院
赤坂哲治郎（S29卒）
本荘市谷山小路七の一
電話 〇八四―二二三―二二六一（自宅）
本荘市薬師堂字谷地二九二―三
電話 〇八四―二三二―三三三五

羽後銀行本荘支店
支店長
佐藤允（S29卒）
〒015 本荘市裏尾崎町五一番地ノ二
電話 〇八四―二二―〇五三二(代)
FAX 〇八四―二四―三七九二

金谷商事株式会社
(株)本荘グランドホテル
取締役総支配人
奥田繁治（S29卒）
本荘市出戸町岩渕下二五四
電話 〇八四―二三―四五四五

〝紅顔の少年〟に戻り乾杯

昭五会

平成元年九月二十七日（水）午後三時から千秋会館（秋田市南通りみその町）で今年度の昭五会を開催した。あいにく小雨模様であったが、定刻前にはほとんどの出席者が元気な顔を見せていた。出席者は昨年と同数の十九名。ことしは東京方面からは参加がなかったが（藤沢の桜田亮直氏は直前になって残念ながら取止めの電話あり）、鈴木政夫氏が始めて出席し、また、健康を害して、しばらく欠席していた三森福治氏（酒田市）も元気な姿を見せてくれていた。

定刻に開会、本間幹事の会務報告、収支報告のあと、笹山監事の会計監査報告があり、続いて塩田同窓会長から、同窓会の現況や創立百二十周年についてお話があり、仁別の学校林を見学を希望する者もいた。

また、来年は卒業六十周年であるので、例年とちがった企画が必要ではないかという提案が本間幹事からあり、その後、各人の近況を報告し、記念写真撮影。

今年にはいっての物故者（越後谷巌氏・小森信敏氏）の冥福を祈って黙禱を行ない、懇親会に移った。

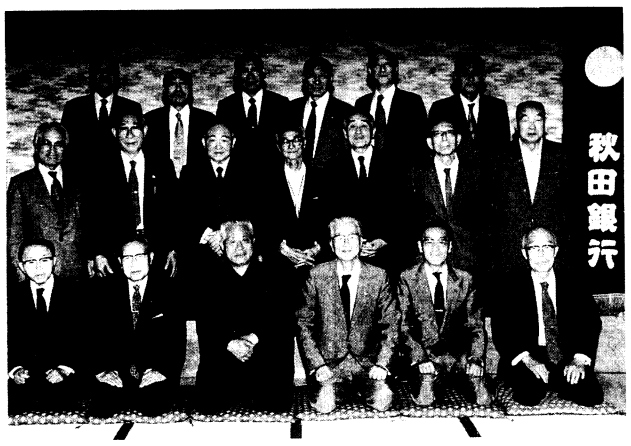
宴酣になると、白髪、禿頭が紅顔の少年の面影に変り、歓談、時刻のうつることを忘れさせた。

鈴木光義氏（宮城県松島町）の音頭で、校歌を合唱。来年の再会を約して、午後六時解散。

出席者氏名次の通り、

安倍　興、相澤謙一、伊藤武雄、大島秀太郎、加藤久三郎、金沢英治、佐藤岩雄、嵯峨勝太郎、桜田正吉、笹山秀武、塩田雄次、鈴木政夫、鈴木光義、藤本儀一、堀井太郎、本間善次郎、松葉重敏、三森福治、和賀　茂。

（文責　相澤）



「健康法」も話題に

昭六会 年輪ますます厚く

平成元年十一月二十六日（日）県内在住の昭六会を開き、アキタ・ニュー・グランドホテル二階に一年ぶりに集りました。午後二時頃からぽつぽつ集って二時半開会。

順々に二時間半にわたって近況やら懐旧談、健康法等一人一人の体験を話し、次いで乾杯・会食となり、五時に名残りも盡きぬまま散会しました。今年は五月末頃を目途として全国に散っている方々にも連絡して同窓会を開く予定。越後谷君の発案もあり、数名の方に卒業後六十年の年輪をもった講演（？）的談話を語ってもらいたいと思っています。

（出席者）阿部武治・越後一郎・遠藤三郎・鎌田民治郎・柿崎長蔵・近藤英夫・根田正吉・佐々木令章・菅原作衛・島田洋治・大門美代三・中安正衛・橋本長康・松渕悌逸・三浦　実・武藤理市・明珍宝雄・諸井東洋・菊地杜夫

（菊地　記）

宮崎氏の受賞祝賀兼ね例会

秋中51期会

秋田中学校昭和十三年同期会の平成元年度定例会（毎年十月第三土曜日）は、去る十月二十一日午後五時二十分から、秋田市川反「かめ清」で、会員十三名が出席して開かれた。

会は大槻幹事の司会で始まり、まず幹事を代表して高安幹事から、「きょうの同期会は、このたび秋田市文化章の受章が決った宮崎金一君の祝賀を兼ねたものである」とあいさつがあり、会務報告、会計報告のあと、平成二年度の定例同期会を仙台市で開くこと、その具体化については仙台在住の菅原晃一君（同窓会宮城県支部長）に一任することと決め、最後に出席者全員の近況報告があってセレモニーを終わる。引き続いて鈴木哲郎幹事の乾杯の音頭で懇親会に移ったが、古稀を迎えた年齢のせいか？お互い酒量は減ったものの、一年振りの再会とあって酔うほどに話が弾み、時の経つのも忘れて談笑、来年仙台での再会を約して、和気あいあいのうちに午後八時散会した。

（大槻　記）

忘年会兼ねて

能代山本支部が総会

能代山本支部総会は、今年も十二月の十二日宮茂登で本部より会長、学校長、事務局と三名のご来賓の出席を戴き、地元は三浦支部長他二十一名で盛大に行われました。

慣例による新会員の自己紹介、飲むほどに母校の話し、盛り上がったところで恒例の福引が、田中発案の川柳で景品が全員に当たるおもしろおかしい？趣向で時間の経つのをしばし忘れましたが、本部の方々のお帰りの時間となり最後は校歌斉唱で散会となりました。

※出席者次のとおり（敬称略）

三浦亀雄、西村節朗、斉藤一雄、織田郷一、草刈稲太郎、加賀谷恭一、藤原五郎、鈴木迪也、工藤英夫、貝田悦男、塩谷　惇、岡田俊夫、佐々木信男、田中勝三、本間義昭、井川幸悦、今井敦雄、湊　修嗣、石田典之、小野義人、伊藤和美、浅野　厚以上22名。

（田中　記）

思い出話に花を咲かす

湯沢雄勝支部

十一月十四日（火）午後六時より、湯沢・雄勝支部平成元年度総会を本年九月開業の湯沢グランドホテルにて開催いたしました。

校歌斉唱の後、阿部行夫氏（昭和33年卒）の名司会のもとで、支部会長奥山信吾氏（昭和3年卒）の挨拶、つづいて塩田同窓会長の挨拶、そして母校より田口先生、伊藤事務局長がそれぞれの近況、動勢について報告されました。

ひひきつづき、石川孫左衛門氏（昭和9年卒）の発声で乾杯をし祝宴に入りました。

当日は会員二十二名の参加でありましたが、初参加の会員もおりましたので自己紹介を兼ねて全員にスピーチしていただき、学生時代の思い出話に花を咲かせました。

最後に副歌を斉唱し、出席会員中最年少の沢田石暁夫氏（昭和59年卒）の万歳斉唱で母校の発展と参加者の健勝を祝し閉会となりました。

（事務局　小川弘二）

今村氏招き講演会

男鹿支部、総会を兼ねて

男鹿支部では、平成元年度総会と第八回文化講演会　今村病院長・医博・今村久悦氏による演題「男鹿おこしとその周辺」について、を、男鹿温泉郷・男鹿観光ホテルにて十一月十八日（土）、午後に開催。

まず、秋山秀磨幹事長（昭二七年卒）が開催の辞と講師・今村氏（昭九年卒）を紹介後、今村氏は一時間二十分、講演されました。その内容は、「病院長としての観点からの老人問題や激烈な現代社会に生きめくための孫子の兵法、更に男鹿の振興・発展に関して具体的な提言」をするなど、時宜に叶う熱情的・格調の高い講演をされた。尚、会場の関係で七十名が参集。

その後、総会に移り、秋山幹事長が「長年の懸案である北浦地域・男鹿温泉で開催でき誠に慶ばしい」と司会の辞を述べた後、加藤義孝支部長（昭十六年卒）が「更に一層の親睦を図りたい」との挨拶後、秋山幹事長が約三百万円萬の会計決算報告をし了承を得、また、男鹿支部史・「小鹿島」の出版祝賀会を九月に開催したこと、十月に男鹿市主催の〝男鹿の歴史と文化に関するシンポジウム〟に男鹿支部として「中世史上の男鹿安東氏及び男鹿の先覚者等」に係る出版誌（B5判五十頁）を三百人の参加者に提供し好評を得たと報告。

その後、来賓の小玉同窓会副会長と校長代理・佐藤正教諭から各々、挨拶があった。

直ちに記念撮影をした後、懇親会に移り森山勇一郎副支部長（昭十三年卒）の開会挨拶を開催地・北浦地域の福島亀蔵支部顧問（大十一年卒）の力強い乾杯で、極めて盛会裡に進行し、最後に諸井東洋治支部顧問（昭六年卒）の閉会の挨拶と渡辺昭男副支部長（昭二十年卒）の音頭で校歌を高らかに熱唱しつつ終了した。

（秋山秀磨）

慶　祝（判明分）

S20	小玉順一郎	黄綬褒章
S15	岩谷文雄	藍綬褒章
S17	遠藤一秋	藍綬褒章
S25	宇佐美悦郎	藍綬褒章
S4	大川三郎	勲四等瑞宝章

つどい

年次紹介

三九会

母校の長い大史の流れの中で、これほど意義ある事柄に立ち会う機会のあった学年はないだろう。そういう意味から考えると、生涯母校との深い絆を立ち切ることのできない我々だと自負している昨今である。

希望に胸脹らませ入学したあの時、駅前校舎は、我々に伝統の持つ厳粛さを感じさせるに十分であった。そんな旧校舎を後に各自が校具を携え、長蛇の列を作って手形の新校舎に向ったのは、翌年、春まだ早い二月であった。

短期間とは申せ、住み馴れた我々にとって、何か言うに謂れない寂しさと同時に、この伝統ある校舎で生活できたという満足感が錯綜した。

一方、新校舎での新しい大史のスタートを担う、責任ある元年の一つという自負も忘れることはなかった。

四月に鈴木健次郎先生が校長に就任、「……毎日毎日の一瞬を完成し得ないものは、自分の人生航路を完成し得ないものだろう……」熱く語る言葉に触発されて、かつてない胸の高まりを感じた。同時に学校全体も活気に満ち、総体四種目優勝など、運動、文化面での活躍には目を瞠るものがあった。

九月、待望の創立九〇周年記念祝賀会が挙行される。我々は最上級生として式典参加の栄誉に浴した。松本岸雄生徒会長が生徒を代表、秋高の伝統の継承に触れ、過去がいくら良くても現在において存在が認められないものならば、過去の栄光はなんの価値も持たなくなる、その

東京支部も組織化

ための現在の努力、前進が私たちに課せられた義務であると力強く決意を表明した。

どれ一つとっても、昨日のことのように、深く忘れることのできない感動の数々である。

そんな学年が、卒業以来一同に会する機会のないまま約二十年、母校百十周年を契機に県内在住の有志を中心として組織作りの気運が一気に高まり、昭和五十八年、第一回同期会が開催された。会の名称も「三九会」と決定、大きな盛り上がりの内に定期的開催、会員名簿作成などの事業も確認され、今日広くその主旨が浸透してきている。

又、昨年九月、他の年次に先がけて東京支部が組織された。発会式には、約五〇名の在京会員が集まり、六本木の喧騒の中に、高らかに歌われる校歌と、旧交を温める弾む話し声は、止む事を知らなかった。

在学中の三年間の御恩と、二十年間の空白の時を、三九会々員が、それぞれ母校と何らかの関りを持ちながら埋めていきたいものと考えております。

多忙に追われ、停滞しがちな事務局ではあるが、母校の発展と会員相互の親睦のため、いま以上の努力をしていきたいものと考えております。

三九会　目黒大作

(株)越中谷寫真商会
社長 越中谷正美（S29卒）
常務 越中谷孝一（S59卒）
秋田市土崎港中央六丁目五の七
電話 〇一八六―四五―五七三一㈹

田宮税理士事務所
田宮健一（S29卒）
秋田市手形中谷地六六ノ四
電話 〇一八六―三四―六四二七

南浦医院
内科・循環器科・小児科
南浦光昭（S49卒）
秋田市楢山本町一―三二
電話 〇一八六―三四―一〇九七

千秋薬品株式会社
代表取締役副社長 青山順吉（S49卒）
（本社）秋田市卸町一―一―三
電話 〇一八六―六五―〇一三一
FAX 〇一八六―二三―五五〇九

政府登録国際観光旅館
栄太楼
代表取締役社長 小国敬二郎（S9卒）
秋田市千秋矢留町六―一五
電話 二三三―四一五一～五

内科・小児科・神経科・精神科
痴呆性老人専門病棟・ディケア施設併設
今村病院
院長 今村久悦（S9卒）
住所 秋田市下新城中野字琵琶沼一二四一（中野四区バス停前）
電話 （〇一八六）七三―三〇一一

柔道の竹内君

国際強化選手に

本校から3人目の栄誉

このたび本校三年生の竹内栄君が栄誉ある国際強化選手に選ばれました。これは世界を目指す選手強化の目的で指定を受けたものです。これまで本校で指定を受けた方は、村井正芳氏（三十六年卒）、三戸範之氏（五十五年卒）以来三人目である。指定を受けたことの趣旨を理解し、先輩達を追い越す努力をし、世界に通用する選手になることを期待し、本人に抱負を書いてもらいました。（船木賢咲記）

インタハイで視野が広がる

竹内　栄

高校三年間の部活動をしめくくる夏の祭典インターハイに出場できたことで、私は大きな収穫を得ることが出来た。それは今まで私が積み重ねてきた技、体、そして精神力を一点に集中し、全力で競技出来た事は、自分自身を見つめなおすという意味で、またとない良い機会だったからだ。

この大会は結果こそ奮わなかったものの、自分自身の視野を広げ、また、これから先の柔道生活において、必要不可欠である様々な要素を見つけることが出来た貴重な体験となった。これについては、私をこの域まで育て上げてくれた諸先生、先輩方に対し、大変感謝をしている。

インターハイが終わり高校三年間のクラブ活動に一応終止符が打たれたわけだが、十月の全日本ジュニア大会東北予選に出場し、軽重量級で優勝することの出来た私は、十一月に東京の講道館で行われた全日本ジュニア大会に出場した。大学二年生以下が参加するこの大会は、インターハイとは違った厳しい空気が館内に漂っていた。結果はベスト8で、惜しい所でベスト4入りを逃したためか、納得のいかない部分が多く、反省点も数多く挙げられる。しかし大きな収穫を得ることが出来、今後の課題を見つけることも出来た。

この後私は幸いにして全日本の国際強化選手に選出され、恵まれた環境の中で練習することが出来ることになった。これを好機に一層練習に励み、さらに向上するように努力していこうと思う。そして数多くの課題や精神的な甘さを克服し、応援して下さった方々に報いるためにも国際的に通用するような選手になりたい。

継ぎ接ぎだらけの白壁のこと

田口能祐

環暦ー定年退職。人は「気楽でいい」と言う。余程「窮屈」な生活をして来たせいか。私などやはり窮屈な生活をして来た筈なのに、気楽にはなれそうにない。「自由」というが、どう過ごしていいかわからんなら、若い時に読んだランボーの「酔いどれ船」の詩句「自由よ、洋々たる混沌」である。内に確固たる「舵取り」がいない限り、近頃の軽薄な若者と一般だろう。それ程自由は私にとって恐ろしい存在。警戒しながらしかも手放さずに付き合うしかない。そうすると結局窮屈になる。孔子の有名な七十歳の感慨ー「従心所欲、不踰矩」は近代の自由人にとっても到底及ばぬ所。まして至らぬ私など、適当な窮屈こそ生きるための良い「枷」と言えるだろう。

それに、手掛けた仕事もすべて中途半端。だから「つらい」とか「せつない」とかでなく、白皚々（けい）たる山々を選んだ。自分のありったけをもってこの二つと対決して学びたかった。二度程迫まったが、折からの天候で「穂高・乗鞍」の方は拝むことが出来なかった。深志の方は校長さんが終始応対してくれ、一時間半程話し合った。深志出身で春日先生と言った。凡そ次のように話してくれた。

「県下の優秀な子供を集めているので、大学に入れるー使命でしょう。ために先生を集め手も入れる。だがラサールとは違う。公教育に携わる高校は学業と特別教育活動のバランスが大切。前より精神面で弱いから両立が出来ない。生徒会活動と部活動が少し弱い。昔からそうなのだが、安易な方ー学業の方に傾いて行く。遅刻も早退も多くなっている。幸い来年は生徒会幹部に東大組が二人もいるので彼らの自浄能力に賭けている。この間自己顕示欲を知識にだけ向けないで欲しいと話したところだ」

創立年も組織なども殆ど同じなのに、今何か逆の悩みを抱えている。どうしたことか。私ども県人は教師も子供も地味を嫌い、変に新しがり屋で「ええふりこぎ」なのであるまいか。

そんなことを考えながら、還暦の男は静かに一礼、所々崩れ落ちて継ぎ接ぎだらけの六十年もなる白壁の応接室を出た。

とにかく定年退職。すべてを置いて、去るのみである。心残りであるが、意外にサバサバしていて、残っている仕事をかえって「なつかしむ」感じ。

先日、学校の温情で最後の県外視察に行った。公立進学校の巨峰「松本深志」とアルプスの

竹谷選手は3回戦で涙

卓球、全日本選手権

去る十月六日から五城目広域体育館で行われた、全日本卓球選手権大会秋田県予選会の女子ジュニアシングルスの部で、本校二年の竹谷みな子選手は、見事二位となり代表権を勝ちえた。

竹谷選手は小学校四年から秋田県チャンピオンとなり、中学三年まで連続六年間その地位にあり、本校入学後も、一年で兵庫インターハイに出場している。卓球環境と相まって、かなりの素質に恵まれているので、努力次第では、全国的にもかなり活躍できる選手となる可能性がある。室内競技なので、地域的なハンデキャップが全くないので、本人の意欲を大いに期待したい。

全日本卓球選手権大会は、十二月十三日から十七日まで、東京オリンピック公園屋内球技場および代々木第二体育館で行われ、竹谷選手は一、二回戦は突破したものの、三回戦で惜しくも破れた。しかし、これを試金石にして大いに飛躍してほしいものである。（小林洋　記）

「きりたんぽ」優秀賞に

放送委員会

十一月東京で開催された全国放送コンクール。CM部門で、放送委員会（1D田山範子ほか）が制作した「きりたんぽ」が、第二位に相当する優秀賞を獲得した。

この大会の予選にあたる県大会では、「きりたんぽ」が最優秀賞、ドラマ・ドキュメント部門の「夢・時の流れの中で」が優秀賞、アナウンス・DJ部門の一ノ関郁子（1C）が「秋田小町」を紹介して優秀賞、朗読部門の金子亜希（1D）が「三四郎」を読んで優秀賞と活躍、総合最優秀賞（ABS杯）を獲得した。盛岡で開催された東北大会では、惜しくも入賞を逸したが、一年生が意欲的にがんばっているので、来年度の成果が楽しみである。

夏に三年生が引退して、新局長に菅原真悟（2H）がつき、その統率の下、九月の合宿では夜も寝ないでがんばったようである。その後も、放送室で暗くなるまで練習を続けたので、先生たちに心配をかけた。このような努力とセンスの止さが、今回の成果となった。専門的な指導者がいないのに、良くやっていると思う。秋高放送委員会の良き伝統であろう。

全国大会での審査員の講評を聞くと、プロに近い技術よりも高校生らしいセンスと努力が高く評価されている。身近かな話題、問題を高校生らしい発想で新鮮な作品に仕上げていくことが要望される。

読書感想文コンクール

佐々田さん全国へ

第35回全国青少年読書感想文コンクール秋田県高等学校の部第一類（小説・戯曲・詩歌等）で、「星の王子さま」について書いた二年の佐々田朋美さんが最優秀賞に輝き、秋田県代表として全国審査に出品することに決った。これは各地区審査を経て入選した作品の中から県大会で更に審査されたものであり、参加校34校、163応募作品の中から選ばれたものである。彼女は昨年も第一類で入選しているが今年は見事全国審査への出品資格を勝ち得たのである。本人は「幼い頃から星が好きでした。星空の神秘が何かを語りかけているようでした。不思議でなりませんでした。海の美しさ、空の美しさ、これら未知の方程式を覆っているものは何なのか？『砂漠が美しいのは、どこかに井戸を隠しているからだよ…』『大切なものは、いつだって目には見えやしない』王子さまのメロディーのような言葉は、すべての真実を語っているようでした。神秘を悉く俗化してしまっている大人達――王子さまのメロディーを汲み取ってほしいのです。」と話していた。

高橋さんが独学で栄冠

全県ピアノコンクール

「一位になった子は、先生に習っていないんだって」「独学？まさか」ー。そんな会話がコンクールの後日、交わされた。

右のような書き出しで、秋田魁新報の「水曜指定席」欄で紹介されていた彼女は、去る10月29日、秋田県民会館で行われた全県ピアノコンクールの高校生の部で、見事一位に入賞した。

予選、本選でのバッハ、ショパンの曲は、彼女の豊かな感情が余すところなく表現されたもので、審査員の絶賛を博した。

「音楽はあくまでも趣味」と語る彼女の目標は、音楽を愛したシュバイツァー博士である。

大会直前の右手の骨折、という障害を乗り越えたファイトの持主でもあり、将来の夢の実現に向かって、大いなる飛躍を期待したい。

編集後記

○…明けましておめでとうございます。だよりの年を越しての発行は初めて。昨年暮れの常任理事会の協議内容を主体に編集したためだった。作業は年末のあわただしさと年末年始の休暇が重なって悪戦苦闘。新年早々から反省せざるを得なくなった。

○…今年度限りで母校の三人の先生方が定年退職する。寂しい限りだ。特に田口先生には、一昨年まで学校側委員としてだよりの執筆をお願いしていただけに名残がつきないものがある。四面に先生の蘊蓄（うんちく）を傾けた一文を掲載した。一読のほどを…、では同窓生のみなさん今年もよろしく。

謹賀新年

皆さんお元気ですか
今も現役でがんばっております

昭和三九年卒時　担任

A組　大村簡二　〒250 神奈川県小田原市矢作170—7
B組　岡準造　〒983 仙台市泉区南光台3—6—3
C組　石川礼治　〒010 秋田市泉上の町70—3
D組　幸野稔　〒010 秋田市泉字一の坪18—18
E組　北川茂治　〒180 東京都武蔵野市関前4—8—33
F組　館岡昇一　〒010 秋田市横森1—15—12
G組　伊藤仁　〒010 秋田市千秋中島町19—4
H組　武田喜代志　〒010 秋田市保戸野八丁3—31
I組　渡邊淳司　〒011 秋田市将軍野東1—4—25
J組　成田朝春　〒010 秋田市広面字赤沼83—2

佐藤歯科医院
佐藤俊男（S19卒）
秋田市楢山共和町2の3（共和町バス停前）
電話（診）二三—七〇〇九（自）二五—八八三四

川口医院
医師　川口新助（S19卒）
〒010-16 秋田市新屋元町一八—二七
電話（〇一八八）二八—五〇七五

秋田地下タンク検査事業協同組合
理事長　村上十郎（S19卒）
〒010 秋田市中通六丁目二三—五
電話（〇八二三）二八〇九

秋田酒販株式会社
取締役社長　橋本英鐵（S19卒）
秋田市手形田中二—七
（自）電話（〇八二三）二六—八四